利用者からの相談に応ずる営業所又は事務所の変更	一　変更前 二　変更後 三　変更年月日	一　変更前 二　変更後 三　変更年月日
認定信用協同組合電子決済等代行事業者協会への加入	一　加入した認定信用協同組合電子決済等代行事業者協会の名称 二　加入年月日	一　認定信用協同組合電子決済等代行事業者協会に加入したことが確認できる書面 二　加入年月日
認定信用協同組合電子決済等代行事業者協会からの脱退	一　脱退した認定信用協同組合電子決済等代行事業者協会の名称 二　脱退年月日	一　認定信用協同組合電子決済等代行事業者協会から脱退したことが確認できる書面 二　脱退年月日
委託に係る業務の内容又は委託先の変更	一　変更の内容 二　変更年月日	

備考　表中の［　］の記載及び対象規定の二重傍線を付した標記部分を除く全体に付した傍線は注記である。

別紙様式第十四号の次に次の四様式を加える。

別紙様式第15号（第110条の19第２号ニ関係）

（日本工業規格Ａ４）

財産に関する調書（　　年　　月　　日現在）

年　　月　　日

主たる事務所の所在地
名　　称
氏　　名

	価　　額	摘　　要
資　産　計(A)		
負　債　計(B)		
(A)－(B)		

（記載上の注意）

1　この調書は、登録申請者が個人である場合に限り、登録申請書に添付すること。

2　価額については、千円を単位として算出すること。千円未満の端数があるときは、これを切り捨てること。

3　(A)及び(B)の価額の算出は、次のとおり行うこと。

(1)　基礎とする各資産及び各負債の価額については、原則として、取得価格（取得価格のないものにあつては、取得時における適正な評価価格）に基づき算出した、申請の日の前年の12月31日における残高による。

(2)　有価証券の価額については、当該有価証券に時価がある場合にあつては、上記(1)にかかわらず、この調書を作成する日（以下「算出日」という。）に公表されている最終価格に基づき算出した価額による。

(3)　土地及び建物の価額については、上記(1)にかかわらず、直近の固定資産税評価額等の、算出日における適正な評価価格に基づき算出した価額による。

なお、借入金により取得した居住用（事業所を兼ねる場合を含む。以下同じ。）の土地又は建物については、次のとおり計算した額を土地、建物及び借入金の価額とすることを原則とするが、算出日の借入金の価額が土地及び建物の直近の固定資産税評価額等の合計額以下である場合にあつては、土地、建物及び借入金の価額を全て零とみなしても差し支えない。

「土地」又は「建物」の価額＝

$$\text{居住用の土地又は建物の算出日の適正な評価価格に基づき算出した価額} \times \frac{\text{取得時の自己資金}+\text{返済済み元金額}}{\text{取得時の借入金}+\text{取得時の自己資金}} \times \frac{\text{居住用面積}}{\text{居住用面積}+\text{事業用面積}}$$

$$+\text{居住用の土地又は建物の算出日の適正な評価価格に基づき算出した価額} \times \frac{\text{事業用面積}}{\text{居住用面積}+\text{事業用面積}}$$

「借入金」の価額＝算出日の借入金の価額$\times \dfrac{\text{事業用面積}}{\text{居住用面積}+\text{事業用面積}}$

(4)　貸倒引当金の価額については、所得税法に基づく計上限度額による。

(5)　営業権、地上権その他の無形固定資産についても、(A)の価額の算出の基礎とする。